

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

エゴとは何でしょうか？一般的には、自我とか自己と解釈されています。アダムスキーが言っているエゴとは、利己主義に近いイメージがありますが実際は違うようです。

一般的にエゴという場合は、自分を持っていることであり自我の確立は重要なこととなります。そこからプライド（誇り）が生まれ、それ自体は問題となりません。それらを固持するあるいは、妥協しないということが問題となるようです。それも時と場合によって、超一流のスポーツマンや政治家などは、それで大成することもあります。

このように、一般的にエゴという場合は、決して悪い事ばかりではありません。しかし、エゴにしてもエゴイズムにしても、人間の心の一部を意味していて狭い範囲の状況を言っています。アダムスキーの言っているエゴとは、四つの感覚器官である視覚、聴覚、嗅覚、味覚により形成された心を指しています。この四官は、それぞれ異なる能力を有していて、共通するところがありません。従って、それぞれの器官の好き嫌いにより独立した自我を持つようになります。

つまり、それぞれの器官の好ましい事のみを求めるようになり、他の器官を尊敬せず調和しようとしないのです。これがアダムスキーの言うエゴであり、人間の心を形成することとなります。その心（エゴ）は、頼れるのは自分だけとなって、目先のことに左右され常に不安な思いにさらされます。その結果、人間同士が対立し、戦争と破壊の繰り返しとなるのです。これでは、成長し発展するような、安定した未来を築くことはできません。

では、どうすればよいのか？まず、このような心（エゴ）を自分は持っているのだと自覚すること。そのうえで、正道を求めていくしかありません。具体的には、アダムスキーや仏陀が伝えたように四官をコントロールするということです。そのうえで、心（エゴ）が本来頼るべき指針である“宇宙の意識”を自覚し、それに従っていくということです。

のこと、つまりエゴの自覚とそれをコントロールするということ、そして宇宙の指針を見出すことが、アダムスキーが伝えた要諦であり地球人に明示された光明であると思います。

“言葉に注目”

＜それは純粹な錫(すず)であり地球上ではごく微量が知られている…＞

『UFOの謎』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、円盤から落とされた物質についての報告です。1953年にブラジルのカンピナスに落下して溶けた金属の話があり、それは、円盤からのものだという。「数機の円盤がその町の上空に全市民の眼前で停止していた。まん中の一機が故障しているようだった」。これと同様な事件が、ワシントン州のタコマで発生し、ここでも故障機が融解した金属を落としたということです。数ポンドの金属が街路や歩道に落下して輝く金属に凝固してしまったという。

この金属をブラジルのある研究所とアメリカの一科学者の両方によって分析され、それが純粹な錫（マグネシウムという話もあるようです）とされているようです。これを作り出した技術が、この地球上のものではないことは明らかだと、アダムスキーは言っています。

「生命の科学」学習のポイントPart111

今回は、レクチャー12「たえまなき進歩の報い」の『本講座の要約』です。

この前段に、確認事項のような部分があります。そこに第11講について、「あなたへやってくるもろもろの啓示は過去のあなたの一部であるのでそれを無視しないようにと警告しました。」と書いています。そして、それはきわめて重要なことです。その理由は、「人生は“はじめ絵”パズルのようなもので、あなたが完全な絵を望むならばどの部分も無視できないからです。」としています。そして、人間は好き嫌いの生活をしてきており、一部分を代用するようなことをしがちですが、これらにうち勝たなければならないと言っています。

そして、善とか悪とか興味を持てないというのは、理解力の欠乏による法則の誤用であると語ります。しかし、その過失により学ぶのであると伝えています。人間は、物事を分析する権利を持っているものの、非難してはいけないと注意します。分析に過失があったならば、素直に認めることを促しています。次に、講座についての要約となります。

第1講では、生命の分析と因を知覚すること、物事の因果関係に気づくこと、そして感知力を増すよう努力すること。第2講では、心が外界の諸現象に惑わされないこと、他の万物の働きの驚異を感じること。第3講では、宇宙の法則が万物の中で働いていることを見ること。第4講では、万物が相互に関連し合っていることを観察すること。第5講では、英知と生命力は意識から来ること。第6講では、肉体を若返るには心を若返らせること、新しい物に関心を持つこと。第7講では、宇宙の記憶と記憶の重要性について心だけでは記憶を保てないこと。第8講では、人間の分離感は知識の欠乏による。第9講では、宇宙的細胞と物欲細胞に関する事。第10講では、意識による旅行について。第11講では、宇宙空間の探検について。第12講が、本講になります。今回は、要約部分なので解釈より概要のようになりました。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編111＞

“学者の取った天下なし”

学者は学問のうえでは政治や国家について理想を論じても、実際の世の中のことはよくわかっていないから、政権を握り、政治を行うことはできないという皮肉です。しかし、学者の多くは、世俗を離れた理想を語るもので、そのところは、良い点でもあると思います。



Q：国際アダムスキー普及会の狙いは？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：G・アダムスキーから伝えられた教えを正しく理解し継承すること、そして出来れば普及することにあります。また、新たな情報がない中で、アダムスキーの正当性を伝え続け、出来ればアダムスキー支持者を減らさないことにあります。これらは、なかなか困難な活動です。

書物紹介

『宇宙を超える地球人の使命と可能性』 木内鶴彦 著 KK ロングセラーズ

木内氏は、3度臨死体験をしたことで知られ、その時、意識体の中で自己を失わないようにしながら様々なことを経験しました。その経験から色々な発見や発明をしています。それらが書かれていて、日本の歴史探訪を始め太古の水の開発や国際特許の太陽光発電システムなど大変な活躍です。透視の様子や意識に対する考え方など、アダムスキーの片りんを感じます。とはいえ、いくつか疑義もありますが、意識界と人間を考えるうえでは良書であると思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2025年5月10日（土）、8月23日（土）、11月2日（日）午後1時30分より台東区民会館第1会議室または特別会議室小。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

毎回のことながら、多忙の中、完成してホッとしています。どうも色々な役を仰せつかり、多忙となっているのが良し悪しのようです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第111号>

発行日 令和7年5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星との会話）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

私たちは、肉体が死んでも転生する部分として魂があることを知っています。アダムスキーは、魂という言葉をあまり使わず、意識（宇宙の意識）と同様に伝えているようです。では、魂と意識は同じものなのでしょうか？

意識は、宇宙がいくつあるとしても、それらの万物を創造しています。宇宙は物質界として、意識の望む姿、イメージを実現する世界として存在しているのです。その世界に宇宙の法則を存立させ規律的なものとしています。

一方の魂は、意識の分与として存在しているイメージです。意識の極小部分であっても、意識と同じであると言っても間違いないと考えられます。しかし、まったく同じと言えるのかということです。

意識は、男女含有の存在であり、魂も同様であると思われます。物質界では、男女が別でありその間に子供ができるれば、子は両親の因子をもらいますが両親とは別ものです。何人か生まれれば、兄弟姉妹となります。兄弟姉妹同士も父母とも別の存在です。仮に、一卵性双生児であっても同様のことが言えます。つまり、肉体も別に存在し魂も異なるということでしょう。

魂が異なるとは、同一の意識から出ながらも個性がある、意識の様々な顔と言えそうです。意識は自己分裂のように魂を創造しますが、それが兄弟姉妹のように個性があり、肉体を得たのち転生を繰り返しながら、それが様々な経験や学びを得、個性に合わせて変化していくように思います。

ひとつの宇宙を見た場合、そこで卒業するような魂も存在していると考えられます。それらは、意識界（原因）と宇宙（結果）をつなぐ天使のような役割を担うように思います。

いろいろ考えてみると、魂は、意識がイメージする宇宙の実現のため、肉体を通じて直接的な支援ができるように創造されているようです。つまり、言い尽くすことは困難ですが、意識と魂では根本は同一であるけれど、役割が異なるということだと思います。

“言葉に注目”

＜こんな暗黒の中に住んでいるこの人間とは誰なのでしょう？＞

『第2惑星からの地球訪問者』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、本書における土星のマスターの言葉です。この前段で、「人間は・・・調和を破壊・・・隣人にたいして敵意をもって生活し、心は混乱して分裂しました。まだ平和を知りませんし、真の美を見ていません。・・・人間はまだ地獄に落ちた魂として生きています。」と語っています。そして、表題の言葉の次に、「それは“不滅なる者”に奉仕しなかった救われざる者です！」と言っています。地球人をこれほど手厳しく、かつ正確に表現できる人はいないでしょう。これは、まさしく多くの地球人の現状であると思います。このため地球上では、魂は継続するが記憶のリセットが起こるのです。地球人は、生きるべき指針に気づかず、意味のないことにエネルギーを使っているのです。将来への希望はあるものの、この現状認識は大切なところです。

「生命の科学」学習のポイントPart112

今回は、レクチャー12「たえまなき進歩の報い」の『この講座を毎日読むことが大切』です。

本文に入る前に、前回触れた要約の最後のところで、「スペースブラザーズは読者の多くがこの講座を通じて充分に発達し、研究グループを組織することを望んでいます。」とあり、「そうすれば、あなたは『自我』を理解するのに自分ばかりでなく他人をも援助する・・・われわれはさらに良き社会を持つ・・・。」と書いています。これが動機となり、かつてのアダムスキーストーン支持団体や、当会など複数の会が「生命の科学学習会」等を行っているわけです。

そして今回では、次のように書いています。「一日一講座の少なくとも一ページを読み直して、その中に述べてある事柄を思い浮かべながらその日を過ごすのは賢明です。そうすればいつのまにか多くを身に附いている自分に驚くでしょう。」

実際そのようにしている、という人もいることでしょう。自分の経験では、そこまでではないものの「生命の科学」に触れる機会を増やし、文章の意味を深く掘り下げ感じることで、現実社会における様々な事象を理解することができたと実感しています。

続いて、本講座は、人生の道標になること、緩慢な進歩に失望してはいけないことが書かれています。そして、「あなたの『真の実体』という真珠を得るためににはうんと掘り続ける必要があります。」と言って、これを勇気と決心と忍耐で行えば、永遠の祝福という報いをもたらすとしています。

人間に必要なのは『真理』です。人間の欲が入ったものや地球だけに役立つ知識は、宇宙的にほとんど意味を持ちません。時代を超え、全宇宙に通じるもののが真理です。「生命の科学」は、その真髄を理解することで、この世界で様々な真理を見出すことができます。これを実感できるほどに学んでいく必要があると感じています。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編112＞

“年寄りの物忘れ若い者の無分別”

一般に老人は物忘れがひどく、若い人は経験が少ないとから物事をわきまえないという欠点があるということです。もちろんこれに該当しない場合もありますが、このような傾向があることから言われているようです。



Q: 最近、地球の地軸が傾くとの話がありますが? ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。
A: これは、アダムスキーストーンが初めて知らせたことであると思います。「第2惑星からの地球訪問者」のなかで、オーソンが必ず起こると語っています。しかし、これとは別の異星人からの情報として語られているようです。これらが事実としても、まだ少し猶予があると考えています。

書物紹介

『世界のニュースを日本人は何も知らない6』 谷本 真由美 著 (株)ワニブックス

著者の谷本さんは、元国連専門機関の職員です。日本をはじめイギリス、アメリカ、イタリアなどでの就労経験があり、それを背景に最新ニュースについて独自の解説をしています。仕事に対するスタンスは、日本人と他国の人々とは、大きな違いがあることがわかります。また、様々な事件等の背後について、日本ではあまり報道されないことにも忖度なく解説を加えています。本書は、同タイトルの6冊目ですが、どれも同様に勉強になるものと思われます。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2025年8月23日(土)、11月2日(日)、2026年2月23日(月・祝)、午後1時30分より台東区民会館第1会議室または特別会議室小。

【編集後記】

今回は、やることが多く先手先手で様々なことを進めてきました。その結果、余裕はないものの、あたふたせず完成できてよかったです。

URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキーストーン通信 <第112号>

発行日 令和7年7月10日

編集発行 国際アダムスキーストーン普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキーより伝えられたスペースピープルの言葉の中で、原子爆弾に関するものがあります。アダムスキーが初めてコンタクトしたオーソンをはじめ、母船における金星のマスターも原子爆弾について語っています。

いずれも爆発による破壊ばかりでなく、その後の放射能による汚染により生存が危ぶまれると伝えています。日本は、それを体験した唯一の国であり、その悲惨さや放射能による人体等への悪影響についても身をもって知っています。放射能については、東日本大震災によっても、大きな被害を被っています。

原子爆弾については、ロシアや中国をはじめとして、日本を標的とするICBM（大陸間弾道弾）が存在していることを知らされています。この段階で日本は、常に脅かされているのです。

しかし、スペースピープルは、こうなる以前に彼らの宇宙技術と交換に核兵器の廃止を地球に迫ったとみられます。

今日のアメリカをはじめとする動きを見ると、どうやら地球は、それを拒否し、彼らを地球人の自由を拘束する危険な存在として認識しているようです。

核兵器の危険性は、それだけではないことを最近気づきました。宇宙は、宇宙の意識（意識）により創造されましたが、それを実現したのは元素であるということです。そしてこの元素は、意識の指示に忠実に従うということです。

これは、宇宙が生きた体だとすると、元素は、それを構成する細胞であるということです。つまり、原子核の分裂を原理とする爆弾は、生きた細胞を分裂させ死滅させていることになります。

これは、肉体を傷つける行為と同様であり、聖なる因子を破壊する行為になるものだと思います。このように宇宙を病気に導くような行為は、許されないというのがスペースピープルの言なのだと思います。しかもこの元素は、人間の想いにも従うのです。これらを是とすることが、パラダイムシフトとなって、今後の地球の科学になるのではないかと考えています。

“言葉に注目”

＜それは常に肉体というホームを通じて活動しているのです＞

『宇宙の法則』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、「靈」とはいったい何なのか？ と、アダムスキーが自ら発し、これに対して語ったものです。そして、次のように説明しています。テレビを例にあげ、そこで出演している人々について、「彼らは決して死んでいません！ このことは、心靈主義の全分野と、皆さんが先ほど触れた他のあらゆることの意味を含んでいます」。つまり、靈というのは、生きている人が発しているということです。そして、「皆さんが行うべきことは、テレビのスイッチを入れて局を選択することだけです」。高周波に乗せて映像が送られているので、その周波数に自分を合わせれば、テレビなどなくても映像を見ることができると言っています。また、自己と同じ思考の波動を受け取るとも言います。ここで靈とは、意識の一部として語っているようです。

「生命の科学」学習のポイントPart113

今回は、レクチャー12「たえまなき進歩の報い」の『再び宇宙の意識とは』です。

実は、前回の最後に「あなたの心の中にひそむ意識を信じなさい。そうすればあなたはこれまでずっと別れていた“宇宙的自我”とともに一体となって歩むことになるでしょう。」と書いています。そして、ここで改めて“宇宙の意識”について書いているものです。

その初めに、「宇宙の意識とは、水流を上方に噴き出して次にそれを無数の小さな水滴にしてあらゆる方向に落とし、再びプールの中の水と一体化せしめる噴水のようなものです。」と書いています。この説明は、魂が地上へ出現するときのイメージを想起させます。宇宙の意識の分与として無数の魂が地上へ放出され、それぞれが人生を全うして意識界へ帰るという感じです。

アダムスキーは、噴水の水滴がプールの水と「一体化するとき、その実態の奥に含まれている知識はいつでもたたいて引き出せます。」と言っています。そして、「人間は、飛んでいる鳥の喜びをともにすることができますし、宇宙の秩序整然たる有様に感嘆することもできます。そして・・・人間はしだいに謙虚になり。自己がこのように完全な“計画”的な一部であることに感謝するようになります。」と書いています。

まさにその通りであると思います。しかし、ここで、確認しておきたいことは、“意識”を自覚するという問題です。自分が四官によって、外界を識別できる機能を持っていること。そして、その活用の結果を認識できること。そこが重要なところです。この“認識できる”本体こそ、自己であり“生きている”という証です。この自覚こそ“意識的意識”であり、個人のものではなく“宇宙の意識”と同じ“意識”であると自覚する必要があります。

最後に、「知覚力が身につくと生命が理解され、あらゆる現象は“因なる意識”的な表現とみなされる・・・」。それが習慣となるまで、忍耐強く探求することを促しています。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編113＞

“惻隱の心は仁の端なり（そくいんのこころは じんのたんなり）”

これは中国の思想家孟子の言葉で、人の不幸を哀れみ、痛ましく思う心が仁の糸口となるということです。惻隱という言葉は、ほとんど使われませんが、哀れみという意味で、哀れみという言葉自体、あまり使われなくなりました。しかし、この意味する心の在り方は重要です。



Q：核の平和利用もダメなのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：原子力発電は、核分裂をゆっくり起こして、そのエネルギーを利用するものです。しかし、放射性廃棄物の処理問題が解決できていません。これをどうにかしたとしても、今回の冒頭語に書いたように、宇宙の細胞を破壊している行為になることから良くないと考えます。

書物紹介

『狂った世界』 百田 尚樹 著（株）新潮社

著者の百田尚樹（ひやくた なおき）さんは、「永遠の〇」や「海賊とよばれた男」などの著書、後に映画などで知られた作家です。現在は、日本保守党の共同代表の一人でもあります。本書は、百田氏のメルマガ「ニュースに一言」から再編成されたものです。現在社会の出来事を“狂っている”との視点で書かれています。ユーモアがあり、常識的で大方納得のできるものです。しかし、党首としての東京15区補選での行動には、多くの疑義が呈されています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2025年11月2日(日)、2026年2月23日(月・祝)、2026年5月23日(土)
午後1時30分より、台東区民会館第1会議室または特別会議室小。

【編集後記】

今回も、発行日について、うっかりしそうでした。自治会事業やお盆などもあり、何かと忙しかったのです。しかし、良かったです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキ通信 <第113号>

発行日 令和7年9月10日

編集発行 国際アダムスキ普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星との会見）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

私たち人類は、真実が見抜けません。そのため詐欺にあったり、様々な過ちを行ってしまうのです。その最たるもののが、近隣惑星に異星人が存在していたという事実を理解できないことです。しかしこれは、学校教育をはじめ宇宙物理学や天文学においても否定しているわけですから、ある程度、仕方ないのかもしれません。この呪縛から解放される必要がありますが、今のところは期待できないものと思います。

地球人の99%以上は、日常生活において異星人が存在しているがいいが、まったく関係ない人生を歩んでいます。近くに、そのようなことを語る人もいないし、月面や火星を写した映像には、人間の痕跡などないように見えます。

しかし、異星人の存在は、人類の歴史や進化論ばかりでなく、経済や宗教、人間社会全体にパラダイムシフトが起こるほど大きな問題なのです。こんななかでも、異星人の存在がわかる人もいるようです。その人たちは、教育からではなくテレパシーによって理解できているのです。

また、過去世において、他の惑星に住んでいたことを覚えている人々もいます。私の知るところでは、進歩した惑星に住んでいた人々が、現在の地球にはたくさんいるようです。その人々の中には、地球に学習のためではなく、人々を支援するため、例えば、アダムスキーにより知られた事柄を肯定するために来ている人々がいます。

しかし、その多くは、地球的な価値観や物事に縛られて、本来の生を行えない人々が多いように感じています。過去に地球にいた経験が少ないと、このようなことになるように思われます。今後、これらの人々が、覚醒を促す夢かUFOの目撃により、従来以上に目覚めるチャンスをいただけるのではないかと想像しています。

その一助となるのが、私たちのような活動であり、今後も継続していく必要性があるのです。望むらくは、他の惑星から支援に来ている人々が、その役割に気づき、目覚め、新しい活動の波になることを期待するものです。

“言葉に注目”

＜創造主はどんな種類の心または意識を持っているのか？＞

『金星・土星探訪記』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、「創造主の創造物」というところの一文です。表記の一文に続いて、「われわれも創造主と同じ意識を持っているのか？」とあります。

そして、「そうです。われわれも創造主と同じ意識を持っているのです。」と書いています。これは、「生命の科学」より理解できることですが、しかし、このところが理解しにくいところなのです。人間は、素晴らしいことを行う一方、他人を欺き、ごまかし、傷害や殺人まで行います。その人間の意識が、創造主の意識、すなわち神であるというのです。

人間の魂が宇宙の意識の分与なので、そう言えるわけですが、意識は指向性があるものの人の意思に力を与える側にいます。だから、意識の指向性に従う行動が特に求められるのです。

「生命の科学」学習のポイントPart114

今回は、本講座の最後として、『奇跡を発生させる方法』です。

初めに、この講座の読者からの報告によれば、知覚力の応用によって実際に奇跡を起こしているという。そして、記憶しなければならない事柄として、「意識は過去、現在、未来を通じて、いかなる惑星でもそこの創造されたものを通じて常に現れている・・・。」、「意識のなかにこそ無限のアイデアが生まれる・・・。」と書いています。

こうして自然界では、多くのものが発達しているけれど、アイデアだけでは原型であって意味がないと語り、その現象化のためには活動が必要だと言っています。これは人間社会においても同じことです。いくら良いアイデアがあっても、活動しないと実現しないのです。

そこで宇宙の意識は、宇宙の諸元素をさまざまな結合状態で応用する必要があったと書いています。そのためには、諸元素がその指示を理解する英知を持っているということ、そこで、「言葉すなわち波動によって命令が与えられた。」と記しています。これにより諸元素が必要な結合などを行うのですが、これは人間にもできると「第2惑星からの地球訪問者」における土星のマスターは語っています。善かれ悪しかれ諸元素は、人間の指示に従うのです。

改めて、「創世記には最初の創造は『空間』であって、物はなかった・・・。二度目の創造で物が現れ始めました。ここでわれわれは、創造主は、この場合は力であるところの精霊に命令または暗示を与えたことに注意しなければなりません。」と書き、「・・・その命令を遂行する・・・元素の・・・英知に対して命令を与えた・・・。」と説明しています。

つまり、最初に何もない宇宙を創造し諸元素に命令を出した、これこそ宇宙の意識が意志を持つ証拠です。そして命令を理解できる諸元素の英知が、精霊であると説明しているのです。元素類は、精霊であるところの英知を持っている。このことを忘れてはならないと思います。

宇宙に“生きる”

※ 次回へ続く

＜名言格言編114＞

“壁に耳あり障子に目あり（かべにみみありしようじにめあり）”

秘密というものは漏れやすいもので、どこで聞かれたり見られたりするかわからないから用心しろと言う戒めです。これは、昔から言われていたことですが、今では、各国の開発関係にスパイが横行していて、正に、このようなことになっているものと思います。



Q：異星人の基地は地球にあるの？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：彼らは、大きな母船を持っていて、そこから小型船で飛んでくる場合が多いと思います。しかし、月や地球上の海底や地下に基地を持っていると考えるのは妥当であると考えます。このことは、静かに行っていることで、彼らも公言しないと思われます。

書物紹介

『日本人の真価』 藤原正彦著（株）文藝春秋

本書は、「文藝春秋」に掲載された3年分の巻頭エッセイにいくつかの論説を加えた書物です。本著者は、本項で何度か紹介しているお茶の水女子大学名誉教授であり数学者です。しかし、その文学的センスと博識、ユーモアには感心します。物事にたいする観察眼は、見事というほかない、知者はいるものだと感じるところです。なかなか勉強になる1冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2025年11月2日(日)、2026年2月23日(月・祝)、2026年5月23日(土)、8月22日(土) 午後1時30分より、台東区民会館第1会議室または特別会議室小。

【編集後記】

時間の進むのは早いと感じます。これは、年をとったということかもしれません。本編集もうっかり、しないようにしたいと思います。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第114号>

発行日 令和7年11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会話）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

人の喜びには色々なものがあります。旧友に会えることの喜び、おいしいものを食べることの喜び、相手を打ち負かした時の喜び、他者を欺いて現金を手に入れたときの喜びなど、人により違いがあります。

喜びは人により異なり、他者から見れば不徳の喜びもあれば、共感するような喜びもあります。これには、楽しみや幸せあるいは充実感などが含まれているでしょう。総じて個人的なもので、四つの感覚器官（目、耳、鼻、口）により作られた好きや嫌い同様に、心に依存していると考えられます。しかし、人間が喜びを感じるとき、『神（意識）も喜んでいる』という話もあります。これが真実だとすると、人間が悲しんでいるとき意識も悲しんでいることになります。すべての背後に意識はあるわけですから、そのように考えてよいように思います。

最近、MLBワールドシリーズを見ていて感じのですが、自分が推しているチームが苦しい中で得点を入れると、人々は爆発的に喜び他者と跳ね回り抱き合います。この喜びは、明らかに四官によるものでエゴに属していると思われます。スポーツなどの場合、自分のことではなく他者である選手の勝ち負けに、自分が喜怒哀楽するということです。つまり、他者の喜びや悲しみを共有していることになります。これは、他者への思いやりに通じた感情なのだと思います。この部分は、人間の成長や学びにとって、大変重要なところであると理解できます。さらに自分の推している思いと同じ思いの他者と共に、チームの勝ち負けの喜怒哀楽を共有し、見知らぬ者同士が仲良くなったりします。

これらのことから理解したことがあります。感情の爆発や負けた場合の過激な行動は良くないと思います。しかし、選手たちと会場との一体感や共鳴などは、本来ならば、人の心と意識との一体感や、人同士の一体感の一端を学んでいるのではないかということです。

人間は、このようなことを経験しながら、意識との一体感について学習しているのだと思うようになりました。そして、このように思うことは、概ね正しいのだと考えているのです。

“言葉に注目”

＜月のこちら側の山々の中にはまだ多量の水が地中深く含まれています…＞

『第2惑星からの地球訪問者』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

表題の語りは、アダムスキーが初めて土星の母船に乗船した際に、月に6万4千kmまで接近し、大写しの映像を見せられながらズール（土星人）が説明したものです。続いて彼は、「クレーター群でかこまれた山々の斜面に、大昔の水流のはっきりとした跡があることを指摘した。」ということです。これは、月の表側での説明です。

アダムスキーが目撃した部分については、「…月面を見ていると、地面や深い谷の中などを通っている深いすじ…これは過去の大水量で作られたものにほかならない。この地域にはまだあちこちに非常に小さな植物体がある…。」とあります。近年、月の南半球などで、水が氷の形で発見されました。これは、アダムスキーの言を証明しているようです。

「生命の科学」学習のポイントPart115

今回は、本講座の最後として、『奇跡を発生させる方法』の前回の続きです。

前号の最後に創造主が、「最初に何もない宇宙を創造し諸元素に命令を出した・・・」ことについて書きました。つまり、何もない空間を創造し、この一度だけの命令で万物が創造された。そこには、宇宙の意識の絶対的な確信があったと書いています。そして、「われわれ各人が内奥に存在しなければならぬのは右の種類の確信です。」としています。

「どんなアイデアが浮かぼうと、それは必ず実現する！」と考える自分自身にたいして絶対的な確信を持つ必要があるのです。」そこに疑問を起こしてはいけないと言います。「それは創造主としての確信を持つことになるのです。創造主とともに行うならば不可能なことはありません。」ここが、もっとも伝えたいところのようです。

次の部分においても、本講座の復習として、このことを言い換えながら説明しています。「・・・意識の能力にたいする絶対的な信念と確信を持って、その物事の意識的な青写真を持つのです。次にその青写真のアイデアを捨てないようにし、結果（実現）にたいする絶対的な確信を持ち、言葉による命令を与えながら、明瞭なイメージを描きなさい。」そして、「意識はアイデアの作り手であることに注意しなさい。」と強調しています。

これは、宇宙の法則として、宇宙の意識と同じような方策を講じることで、宇宙という物質界における物事実現の方法として重要なところとなっています。

後半に、「“精霊”とは力と英知です。その“息子”・・・これにより三位一体・・・」と書いています。最後には、三位一体の法則を用いながら、「意識と心が等しい釣合いを保って融合すれば、人間は自分の肉体を完全な健康状態に復元できます。」つまり、意識と心の融合から、完全な健康状態を生み出すということのようです。けだし、納得のいく言葉です。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編115＞

“ 真の闇より無闇が怖い（しんのやみよりむやみがこわい） ”

本当の暗闇も怖いが、それよりも不尽な言動をする者、節度のない者はもっと怖いのだということです。これは、予測ができないことから来る怖さなのだと思われます。不尽な言動をしたり節度のない者は、確かに何をするかも知れず怖いものだと思います。



Q：異星人は、今どんな活動を？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：地球上の軍事的な争いをはじめ、様々な危機を監視しているようです。同時に地球人の心の在り方を見ていると思います。これらは、地球の宇宙時代へ向けての下準備の一環ではないかと考えています。すべては、アダムスキーが行った事柄とつながっていて、スペースプログラムの遂行であると思われます。

書物紹介

『西洋の敗北と日本の選択』 エマニュエル・トッド 著 (株)文藝春秋

著者は、「西洋の敗北」という著書を25か国で出版してベストセラーになりました。これは、ウクライナ戦争の話です。本書では、英国、米国、フランスという「西洋民主主義」を共に作って来た国が、今や怠惰のせいで崩壊しつつあると書いています。そのうえで、NATO問題や基軸通貨ドルの終焉を見据えながら、今後、日本はどうするのかを考えさせているものです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2026年2月23日（月・祝）、2026年5月23日（土）、8月22日（土）午後1時30分より、台東区民会館第1会議室または特別会議室小。

【編集後記】

今回の編集は、多忙の中でも計画的に進めることができました。新年は、良いことがありそうな予感がしています。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキーブログ通信 <第115号>

発行日 令和8年1月10日

編集発行 国際アダムスキーブログ普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）